

1 JAしまね女性組織協議会

連絡先 電話：0852-35-9003 FAX：0852-35-9045 E-mail：fureai.hon@ja-shimane.gr.jp

名称

平成27年度JAしまね女性組織協議会 およびフレッシュミズ交流集会&ちゃぐりんフェスタ

実施時期

平成27年7月26日(日)

対象者

県内のフレッシュミズメンバー
およびメンバーの子供等(小学生)

参加者数

53名

内容

女性部員から、地元食材を使った伝統料理等を若い世代のフレッシュミズメンバーとその子供たちが学ぶことを通じて、世代を超えた相互交流や地域の宝である伝統料理を次代に受け継ぐことを目的に開催しました。

(1) 女性部に学ぶ親子伝統料理&地産地消料理教室

◎メニュー

- ① 生姜ごはん ② しじみ汁
- ③ 長芋揚げ田楽 ④ 煮しめの盛り合わせ
- ⑤ しいたけのオープン焼き
- ⑥ おこめアイスクリーム(ゴーヤ入り)

(2) 女性部・フレッシュミズTPP学習会

「安心・安全な食」を通じてTPPを学ぶ

(3) ちゃぐりんフェスタ

- ① 『家の光』8月号 親と子の童話』読み聞かせ ② 夏休みの工作にぴったり! 「ペットボトル水族館」



感想

(参加者アンケートより抜粋)

- ① 知らない伝統料理をたくさん知ることができ、とても良かった。子供も楽しそうに参加していました。
- ② 普段、しいたけを食べない子供が、自分で作ったこともあるせいか、パクパク食べていたのが、嬉しかったです。

2 日本労働組合総連合会 島根県連合会 (連合島根)

連絡先 電話：0852-21-8105 FAX：0852-23-4105 E-mail：info@shimane.jtuc-rengo.jp

名称

連合島根第31回 地SUN地SHOW祭り

実施時期

平成27年11月22日(日)

継続年数

31年

内容

10:30開場14:30クローズと例年より30分延長して開催した。構成組織の出店や接客によりのべ5,000人程度の集客でにぎやかな祭りとなった。今年度はしまね食育祭りとの合同開催により大展示場全体にレイアウトし多くの県民に祭りの主旨について触れていただける機会となった。例年がない路線バスの展示と乗車体験、「ことのは」のミニコンサート、松江隠岐地協の餅まきなどで祭りに花を添えていただいた。



3

島根県環境保健公社

名称 平成27年度食品製造者支援セミナー

実施時期 平成27年11月10日(火) 会場 ホテル穴道湖 対象者 県内食品製造者

参加者数 75名

内容

- 「再発見！島根の食材を改めてみつめなおす」
講師：学習院女子大学 国際文化交流学部 品川 明 教授
島根県の食材である柿やカレイを味わい、五感すべてを使って食材の特徴を表現した。カレイの美食ではグループでキャッチコピーを考え、「海の貴婦人」といったコピーが誕生した。
- 「新たな食品表示制度とは ～主な変更点について～」
講師：島根県薬事衛生課 食品表示アドバイザー
石田 範子 先生
平成27年4月1日に施行された食品表示法について、新制度のポイントを解説していただいた。
- 情報提供 「栄養成分表示のための検査」
「アレルギー検査と遺伝子検査」
当団体から、食品表示に関する情報提供を行った。



感想

試食を交えた体験型セミナーは、大変盛況でした。また、食品表示への関心が非常に高いことを改めて実感した。今後も継続してセミナーを開催していきたいと思えます。

4

宇賀荘交流センター

連絡先 電話：0854-23-0721 FAX：0854-23-0721
E-mail：ukashou.cs@cuty.yasugi.shimane.jp

名称 うかしょう☆ウィンター楽校

実施時期 平成28年1月6日(水) 継続年数 2年

参加者数 24名

内容

宇賀荘児童クラブと宇賀荘交流センターが共催で、宇賀荘小学校の児童を対象に長期休暇を利用して、市から栄養士さんと保健師さんにもお手伝いに来ていただき、毎年調理実習を行なっています。今回は今、話題の『おにぎらず』を含めた4種類の料理を作った。2班に分かれて、それぞれが考えたオリジナルスープ作りもした。スープの名前も自分たちで考え、盛り付けもきれいにできた。回を重ねるごとに、どんどん子ども達の手際もよくなり、親子で参加して下さる方もあり、毎回参加率の高い人気の行事となっている。



5

認定NPO 法人自然再生センター

連絡先 電話：0852-21-4882 FAX：0852-61-0900 E-mail：info@sizen-saisei.org

名称

和スイーツで「中海の恵み」を発信！
～スージー・スイーツ～

実施時期

春～夏

継続年数

4年

内容

スジアオノリの養殖を通じた中海の環境学習を松江市立本庄小学校の4年生と平成24年度より行っています。スジアオノリといえば四万十川が有名ですが、汽水湖中海でも生息している。

中海との触れ合いが少なくなった子ども達ですが、環境学習に取り組むことで中海の恵みに驚き、「豊かな中海を伝えたい」「地元の特産品にしたい」という強い思いに変わった。親水を通じた環境学習が、子ども達の考えを変え、そして地域の大人を巻き込み“スジアオノリ羊羹”販売へと発展していった。

中海の環境について教室で勉強した後、養殖体験を開始。2週間程するとスジアオノリは青々と育ち、網から摘み取り、板青のりに加工したり、そのまま天日干しする。

一昨年までは、ここまでの作業でしたが、昨年からのスジアオノリを使った羊羹作りが始まりました。

そして今年、八月八日(よ一か)には、道の駅で羊羹の販売を開始した。地域の方々と口コミで広げている道の駅店長、試作を二十回以上繰り返し、スジアオノリの風味豊かな美味しい羊羹を完成させてくれた食品加工会社。地域住民の息がぴったりあい、羊羹を通じた中海の恵みを広げる活動が、子ども供達の想いをのせてスタートした。



6

野菜ソムリエコミュニティしまね

連絡先 電話：090-1614-5525 FAX：0852-34-0897 E-mail：gfg06740@nifty.com

名称

キッズ野菜ソムリエになろう

しまね食育まつりの一部として、キッズ野菜ソムリエ養成講座として実施させてもらった。ユニフォーム代2000円を参加費とした。

対象は、4歳～小学生まで。参加者数は30名。

キッズ野菜ソムリエについては以下のホームページを参照。

<http://www.vege-fru.com/contents/hp0255/index.php?CNo=255&No=537>

実施時期

平成27年11月22日(日) 10:30～12:00

内容

- ①野菜・果物のクイズ(例:野菜の花3種のスライドを映しトマトの花はどれか)。
- ②3種のトマトの食べ比べを通じて、味の好みは人それぞれであることを理解。
- ③キッズ野菜ソムリエの任命式
- ④ユニフォームに着替え、キッズ野菜ソムリエとしての活動
(同時開催の地SUN地SHOW祭り会場にて、野菜販売の手伝い等)。

感想

「なかなか食べ比べることってないから良い経験になりました。次のキッズ野菜ソムリエイベントを楽しみにしています」
「子供はクイズが楽しかったようです(年少)。座学の後、現場に立てたのはとてもよかったと思います。」など



7

松江市八束公民館（八束地区食生活改善推進員）

連絡先 電話：0852-76-3663 FAX：0852-76-3669 E-mail：yatsukak@dune.ocn.ne.jp

名称 家族体験活動 恵方巻き作り

実施時期 平成28年1月23日(土) 継続年数 5年

対象者 八束学園生とその家族

参加者数 19名(スタッフ7名含む)

内容

食生活改善推進員さんが講師となり、家族並びに参加者全員で協力して長い恵方巻きを作る。家族体験活動では毎年この時期に、料理教室などの事業を開催し、食についての興味を持ってもらうと共に、家族の絆を深めてもらう機会を提供している。

参加者の感想

「初めて作ったけど楽しかった」「協力して作れてよかった」「いいふれあいができた」「長い恵方巻きだったが息を合わせて上手にできた」



8

松江市市民憲章推進協議会住みよいまち部会
(事務局・松江市健康福祉部保健福祉課)

連絡先 電話：0852-55-5319 FAX：0852-55-5537 E-mail：h-fukushi@city.matsue.lg.jp

名称 松江市市民憲章 住みよいまち部会
親子でボート・カヌー体験&健康料理教室

実施時期 平成27年11月1日(日) 継続年数 3年

内容

- 松江市としての理念やまちづくりの方向を明らかにした市民憲章の周知・推進を目的とする「市民憲章推進協議会」の内、「健康づくり」「支えあいによる地域づくり」をテーマに活動を行う「住みよいまち部会」が実施主体で、本会は民生児童委員協議会連合会、ボランティア連絡協議会、高齢者クラブ連合会等および市で構成されている。毎年11月頃に、「健康づくりの輪を広げる普及・啓発」活動の一環として、市内の小学生親子対象に「親子で運動&健康料理教室」を開催している。
- 前半美保関中学校艇庫付近でボート・カヌー体験を行った後、美保関歴史・生活体験資料館にて、松江市食品改善推進協議会美保関支部の指導協力のもと、季節・地元の食材を用いた料理教室を実施した。(メニュー：釜で炊いたご飯で作るおにぎり、サザエの炊き込みご飯、カレーの干物、野菜サラダ、いん石汁、芋ようかん)
- スポーツ・料理をとおして、食への関心を高めることができ、また、開催地美保関地区を多くの人に知ってもらう、いいきっかけづくりになった。

